

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271202002		
法人名	生活介護サービス株式会社		
事業所名	グループホーム さざんか (1階)		
所在地	千葉県松戸市幸田2-140		
自己評価作成日	平成28年3月5日	評価結果市町村受理日	平成28年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成28年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活ではあるが、1人1人の利用者様を「くらしの主人公」として、これまでの人生、生活歴を踏まえた上で、心地よくすごして頂けるよう工夫し支援しています。職員は利用者様の日々の心身の状態に留意しながら寄り添い、お互いに支え合う関係をつくるようにしています。「グループホームさざんか」が、人と人とが共感・共有・共生しあう場となることを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「思いやりを持って接し、入居者の笑顔を引き出そう」、「スタッフ間のコミュニケーションと連携を強めてチームケアを向上しよう」をホームの年間テーマに掲げ、職員が一人となり取り組んでいる。ホームの年間テーマや食事に関する内容、業務改善についてなど、職員の意見を積極的に取り入れ、サービスの質の向上につなげている。また、職員のスキルを高めるために、法人内合同研修への参加や系列ホームとの交換研修の導入、利用者とのコミュニケーション内容をボードに掲載し、コミュニケーションの継続に努める等、法人の強みやホーム独自の工夫も積極的に取り入れ、サービス向上につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の得意なことを活かしていただき役割のある生活を支援する 利用者様と職員は互いをパートナーとして、共に生活を支えることを実践しています	法人の理念を「介護の中に生活の視点を持ち、役割のある生活を支援」と掲げ、事業所の年間テーマとして①「思いやりを持って接し、入居者の笑顔を引き出そう」②「スタッフ間のコミュニケーションと連携を強めてチームケアを向上しよう」を定めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	設立後12年が経過、散歩に出かけると地域の方が先に挨拶してくださる光景があります また自治会の一員としても地域とのつながりを大切にしています	地域交流の充実に向け、散歩を通じてあいさつを交わしたりホーム主催のお祭りや防災訓練の際には案内を配布している。地域行事への参加やボランティアとの交流などを通じて、地域と良好な関係を築いている。	地域とは良好な関係が構築できているが、今後に向けても自治会などから地域の情報を収集し、より充実した交流が図られることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会との繋がりをきっかけに地域包括支援センターとも協力し、認知症への理解を広げる取り組みを計画しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、知見者、行政や地域代表の方からの質問やご意見を取り入れ支援に活かしています	会議には、地域包括支援センター、民生委員、自治会副会長、介護相談員、他のグループホーム職員の参加を受け2ヶ月に一度定期的実施している。入居状況や事故報告、催事報告のほか、参加者との意見交換を通じてサービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課からは定期的に、グループホームの現状を調査するアンケートがあり、事業所もわからないことは直接電話で問い合わせています また、グループホーム協議会で定期的に介護保険課と意見交換する機会があります	市の担当課との連携については、グループホーム連絡会を通じて市の担当の者と協議を進めたり、また運営上の疑問が生じた際には、都度確認を取る等、日頃から協力関係を築き、運営を進めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1年に1回、職員に向けて、身体拘束廃止をテーマに、拘束の定義や内容、弊害について理解を深める研修を行っています	ホーム内研修において、身体拘束廃止について職員に周知し、意識を高めている。現状、玄関の施錠を含め、身体拘束につながる事例は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	この間の事件発生を受け、ミーティングで職員や周囲の感想・受けとめを共有しました 身体拘束と合わせて虐待防止関連法の研修を行っています		

グループホームさざんか(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人養成講座受講生の実習を毎年受け入れ、法人内で後見人に関する研修も実施しました。既に後見人制度を活用している利用者様、今後の活用を準備している利用者様がいます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明文送付後、ご家族の来所時や電話で内容についてご理解いただけたか確認をし、納得して同意をいただけるよう働きかけています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様来所時の聞き取り、松戸市介護相談員の相談活動、月毎の職員からご家族への手紙や運営推進会議議事録を通して、質問や意見の募集を行っています	家族からの意見や要望は面会時に直接伺うほか、秋のお祭り時に家族会を開催し、運営に関する意見等を確認している。利用者からの意見や要望は日常会話からの収集のほか、月に一度介護相談員の方が来所され、利用者からの声を確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善・運営面の見直しなどで職員からの意見やアンケートを元に課題を抽出し、話し合った改善策を実践しています	ホームの年間テーマや食事に関する内容、業務改善についてなど、職員にアンケートを取り、職員の意見を参考に業務改善につなげている。また、年2回職員との個人面談を実施し、意見や提案を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課以外に、職員自らの自己点検の提出や面談を通して、必要とされる改善を把握し、実施しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課、自己点検、面談、管理者からの発信から、さまざまなテーマでの研修の実施、エルダーメンター制度の導入などを通して育成に努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の副会長として、市内事業所間の研修や交流の機会を作り、また法人内の事業所間の交換研修や交流の場を企画・運営しています		

グループホームさざんか(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の思いを聴き・受けとめると共に客観的なアセスメントの実施で、状態や状況を理解することで、利用者様との信頼関係を作っています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを丁寧に進める中で、ご家族の状況の共有と理解、信頼関係の構築を行っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の動機の理解と共に、これまでの生活の継続性を重視し、無理せず適応できるように視野を広げて支援をスタートするようにしています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は共同生活を支えるパートナーとして、一緒に手伝っていただくことを大切に過ごしていただいています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様のようす・状態をご家族と共有し、協力関係を築きながら支援しています。ケアプランにご家族様との関わりもプランに盛り込んでいます		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後もこれまでの繋がりが継続できるよう、支援しています	これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れない様に馴染みの方の面会を受け入れたり、家族の協力を得て図書館の利用を継続する等、これまでの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースでの時間・散歩や外出の時など、会話や交流を意識して利用者様同士の関係づくりを大切にしています		

グループホームさざんか(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、転居などの理由で支援が続けられなくなっても、経過を見届け、可能な限り協力をしています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン見直し時だけでなく、日常の中で、利用者様の願いを引き出し、思いを言葉にできるような関わりを大切にしています	日頃の会話や表情から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、また家族等の協力を仰ぎその把握に努めている。困難な場合は、家族に相談の上、ご利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントや様々な情報を得て、暮らしの継続を重視した支援を行っています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の顔色、表情、動作などの小さな変化にも留意し、心身共に良好な状態で過ごせるよう、状態やお気持ちに合わせ支援を行っています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎回、ご本人とご家族様に意向を伺い、医療その他の関係者からの聞き取りをし、全職員が現状の振り返りや新たなニーズなどのプランへの意見を持ち寄れる工夫をし作成しています	アセスメントにおいて現状や課題を抽出し、担当者会議で多職種の意見も取り入れ、ケアプランを作成している。ケアプランで掲げた目標については毎月のモニタリングにおいて進捗を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常日頃、個々の利用者様のプランを確認し、サービス内容を実施する、実施したことを記録する際には、記録内容を通して職員同士が共有し、モニタリングに繋がるよう意識しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対し、そのニーズの根拠を理解し、事業所側の都合で判断するのではなく、どうすれば実現できるか？を検討するようにしています		

グループホームさざんか(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様がいきいきと過ごせるために必要な地域資源は、積極的に活用しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の状態に合わせて、提携医療機関外での外来受診への同行・情報提供を行う一方、提携医療機関とも連携できるよう支援しています	医療機関との連携では、ホーム提携先診療所による往診が月2回あるほか、看護師の巡回が週1回あり、利用者の体調変化時においても24時間連絡が取れる体制であり、利用者の状態に応じて適切な医療を受けられる体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師による健康チェックの際、利用者様の状態を報告・相談し、具体的な指示や適切な対応など助言をいただいています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様入院時には、介護サマリー(ADL評価表)を始め情報提供を行っています またご家族様と共に医療機関から病状や治療の経過報告・退院後のアドバイス等をいただき、快復に向け協働しています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に必ず、利用者様とご家族様にご意向を伺っています また、その時々の変化による必要に応じて、提携医療機関の主治医、看護師と共にご意向を確認し方針を話し合っています	重度化した場合や終末期のあり方について、契約段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明し「重度化した場合の対応に係る指針」や「急変及び終末期に関する確認書」を取り交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応方法を、いつでも確認できるように掲示しています。今後は全ての職員が的確な対応ができるよう定期的に施設内研修も行う予定です		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所の防災計画、法人の防災マニュアルを基に、毎朝、災害発生時の役割分担を確認、毎月1回のミニ訓練、夜間帯を想定した防災訓練の実施など、常に災害発生への意識付けを行っています	消防署立会いの下、夜間の火災を想定した通報、避難、消火訓練を実施している。近隣の協力についても運営推進会議で呼び掛けているほか、備蓄品の確保、災害時の家族への連絡方法についても家族に周知している。	今後に向けては、水害の状況についてもハザードマップ等で確認出来ると良いであろう。

グループホームさざんか(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴介助時だけでなく、個々の利用者様のお気持ちや状況に合わせて、言葉を選び声かけをし対応を工夫している	特別な事情のみでなく、普段から利用者への声かけは気をつけ適切な対応が図れるように取り組んでいる。また、グループホームでの接遇についてのアンケート調査も実施し、接遇向上にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に選んでいただくこと、決めていただくことを大切に、自己決定の機会をつくるよう意識し支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様それぞれの生活リズムやペースを尊重し、無理強いしないで、思い思いに過ごしていただけるよう支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	アクセサリーを身につけることや、美容院でのヘアカットやヘアカラーへの同行などの支援をしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「食」に対して関心を持ち楽しんでいただけるよう働きかけています。昼食は全員で食卓につきます 下ごしらえ、盛り付け、後片付けなど可能な限り利用者様に手伝っていただいています	食事の準備や後片付けにおいては、出来る限り利用者にもかかわって頂き準備等を進めている。食事を楽しむ工夫では、季節に合わせたメニューを取り入れたり、外食に出かける等の取り組みにおいて楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて、提供医療機関の管理栄養士にアドバイスを受け、食事内容や食事形態、適切な摂取水分量などに配慮しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医からアドバイスを受け、また入居者様自身へ歯磨き指導もいただき、入居者様の状態に合わせた口腔ケアを実施しています		

グループホームさざんか(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な入居者様全員、昼間はトイレを使用、排泄リズムを把握した上で自然に受け入れていただけるよう配慮し介助しています	利用者一人ひとりの排泄状況を「排泄記録」に記録し、排泄パターンを共有している。日中はトイレでの排泄を基本とし、定時の声かけや誘導により排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト・牛乳などの乳製品、食物繊維の多い食材を使ったメニューの提供、摂取水分量の調整などに努めています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎朝の申し送り時に、体調や予定、ご気分を見てどなたに入浴していただくか相談しています	利用者の体調等を考慮し、週に2回入浴できるように支援している。入浴中は職員も介助につき安全面に配慮している。入浴剤の使用や冬至のゆず湯などを行い、入浴の楽しみにつなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの利用者様の生活リズム、体調に合わせて休息していただくよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に、排便の状態や排便のリズムなどを把握し服薬調整をおこなっています 何かあれば提携医療機関に相談し指示をもらっています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課として嗜好品を楽しむ時間がある利用者様がいます。また、日常的なお手伝い等では、生活歴等の繋がり役割を發揮していただいています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食、理美容、買物などの希望での外出支援をしています。ケアプランにご家族との外出を取り入れて、ご家族に協力いただいている利用者様もいます	毎週日曜日を散歩中心に一日を組み立て、戸外に出かけられるように支援している。また、初詣や近隣のお寺でのお祭り、教会コンサートなど日常的に外出できる機会も確保している。また家族の協力を得て一緒に外出できる機会も確保している。	毎週日曜日の外出や地域行事への参加など戸外活動の充実に取り組んでいるが、日常的にも外出できる機会がより多くなることにも期待したい。

グループホームさざんか(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に定期的に買物に出かける利用者様、定期的なご家族との外出で買物を楽しみにされている利用者様がいます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をご使用の利用者様、事業所の電話でご家族とやりとりされている方、また、定期的にご家族から手紙が届く利用者様など個々に応じて支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や室温に配慮し、季節感を取り入れた装飾、利用者様がさざんかの一員であることがわかるものを掲示しています	共用スペースは、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮され、行事や季節に合わせて装飾したり、掲示をして生活感や季節感を採り入れている。廊下やリビング、トイレも清潔に保ち、転倒の危険になるものは放置せず安全面にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファーにお1人で、あるいは気の合う利用者同士並んで座られたり、またウッドデッキで円をかこむように過ごされたり思い思いに過ごされています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全確保を第一に、ご本人のお好みで居室内をレイアウトしていただいています。ご家族様が、季節ごとに居室の飾り付けをしてくださる利用者様がいます	居室は、利用者やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものを活かして、利用者が居心地よく過ごせるように職員が整理整頓に努めるなど支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札をかけ、共有スペースは(トイレ・浴室)わかりやすく表示し、不安なく使用していただけるようにしています		